

## 平成28年度第2回大阪府北河内保健医療協議会 開催結果

- 1 日 時 平成28年9月30日（金）午後2時～3時35分
- 2 場 所 枚方市立メセナ枚方会館（メセナひらかた） 6階 大会議室
- 3 出席者 38名／委員44名
- 4 議 事

- (1) 地域医療構想の実現に向けた取組みについて（協議）
  - ・病床機能懇話会の報告について  
事務局から資料2に基づき説明の上、本日の意見を含め、承認。
  - ・在宅医療懇話会の報告について  
事務局から資料3に基づき説明の上、本日の意見を含め、承認。
- (2) 次期保健医療計画（第7次）の策定スケジュール（案）について（報告）  
事務局から資料4に基づき説明。

### [意見等]

- (1) 地域医療構想の実現に向けた取組みについて
  - ・病床機能懇話会報告について
    - 圏域における病床機能の現状をしっかりと把握して、回復期における病床の充実について理解を深める必要がある。
  - ・在宅医療懇話会報告について
    - 北河内圏域では中小規模の地域密着型の病院が多く、そうした病院と介護施設の間を入退所される高齢者の方がかなりおられる。  
地域にどのような施設があるかなど、ICTを活用した連携を検討していくに際しては、施設の空き状況や認知症患者の受入れなど、施設の様々な情報を得ることも大切になってくる。
    - 地域密着型病院の地域連携室の看護師など、病院の病床の状況を把握し、あわせて介護とのコーディネーターを果たす役割が大切である。病床機能分化と在宅医療介護との両方に跨る存在が大切であり、そういった視点から2025年に向けて考えていくべきである。
    - 病院と施設とのICTネットワークは必要である。またその際は情報漏れ防止等、セキュリティの確保も重要となる。
    - 在宅医療に関する現状、課題、施策等について、多岐にわたる事項があることがわかったが、在宅医療を受ける立場では普段、知ることがない。在宅医療サービス利用者への広報周知も大切である。
    - 様々な施策があり、医療者でもわかりにくい点が多い。一般の方々にもわかりやすいようにしていくことも大切である。
    - 在宅医療連携の場に、いわゆる貧困ビジネス事業者が介入する可能性もあるので注意が必要。この課題につき考えていかななくてはならない。
    - 在宅医療については情報提供が重要であり、ICTの活用に際しては、誰もが簡単にわかりやすく使えるものにしてもらいたい。
    - ICTの検討においてはフォーマットを早めに決めていかないと、後々使いにくくなるのではないかと。
- (2) 次期保健医療計画（第7次）の策定スケジュール（案）について  
意見なし